

# 都市再生整備計画 事後評価シート 脇町地区(第3期)

令和3年3月

徳島県美馬市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	徳島県	市町村名	美馬市	地区名	脇町(第3期)			面積	16ha			
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	2,946.2	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 基幹事業 高質空間形成施設(カラー舗装等(高質化))(市道脇町237・236号線)、既存建築物活用事業(高次都市施設)(地域交流センター) 提案事業 地域創造支援事業(美馬市立図書館整備事業(地域交流センター(2階))、事業活用調査(まちづくり活動調査事業)									
	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	基幹事業											
		地圖創生支援事業(情報板(多言語式)(多言語式観光案内版)) まちづくり活動推進事業(まちづくりワークショップ)			情報板、別途事業(関連事業に位置付け)により実施することとなつたため削除。 まちづくりワークショップ:事業活用調査に内包して実施したことにより削除。			情報板:関連事業で実施したため、数値目標等への影響はない。 まちづくりワークショップ:事業活用調査(まちづくり活動調査事業)にて内包して実施したため、数値目標等への影響はない。				
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(カラー舗装等(高質化))(市道脇町239号線)			地域交流拠点(地域交流センター)のアクセス道であり、かつ、当該拠点と親光拠点(うだつの町並み)を結び人々と文物の交流の動線となる市道脇町239号線について、周辺の自然や歴史・文化と調和した景観の達なりを形成することによって、拠点間の交流機会の増加につながるため追加。			動線整備であり、数値目標への影響は軽微であるため、変更なし。			
			提案事業									
	交付期間の変更	当 初	平成27年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変 更	平成 年度～平成 年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		從前値	目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定期間
	指標1		基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	地域交流拠点施設の利用者数		人／年	-	-	104,400人	H31	○	あり	既存建造物を改修し、地域ニーズに即した多様なサービス機能を配置した中心市街地の交流拠点として生まれ変わった「ミライズ」は、行政、市民、事業者等の多様な主体との協働によるハード・ソフト事業が展開され、地域住民の相互交流、健康増進、コミュニケーション活動を支える拠点施設として多世代から利用されている。特に、音楽・文化・芸術活動に関しては県西部圏域の中核的な施設として利用されている。また、日本建築学会の「作品選集2020」や日本建築家協会四国支部の「第4回四国建築賞」をはじめ、「第29回BELCA賞」など、既存ストックの有効活用事例としても高い評価を得ている。		-
	指標2		人／年	196,885人	H25	234,000人	H31	△	なし	既存建造物を改修し、新たにまちの交流拠点として生まれ変わった「ミライズ」と、親光拠点である「うだつの町並み」を結ぶ舗装の高質化は、新たな人の流れを創り、交流機会の増加につながった。数値目標である来訪者数は、計画期間中も減少の一途をたどっていたが、平成30年度には「ミライズ」との相乗効果により減少傾向から脱却し、從前値付近まで回復するなど、増加傾向を示していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会状況の変化等により実数での達成は困難となつた。		-
										一方、空き家・古民家を活用した事業者の起業と、それに伴う「食」や「宿泊」に関する業態の増加により、市民や事業者の主体的な誘客活動や観光地域づくりが積極的に取り組まれたことで、まちの魅力と活力が再生し、新たな人の流れが生まれた。		-
	指標		単位	從前値	目標値	数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定期間	
	その他の数値指標1		事業所数	事業所	16事業所	H26	-	29事業所		市全体の事業所数が減少傾向を示す中であつて、歴史的町並み景観の再生と併せて、空き家や古民家を活用した企業誘致等を推進したことで、サテライトオフィスや飲食業、宿泊業をはじめとした新たな人(事業者)の流れを呼び込むことにつながるなど、まちの賑わいや活気を取り戻すことができた。また、こうした流れが生まれることで、数値目標には反映できない観光客等の増加につながっている。		-
	その他の数値指標2		軒	7軒	H26	-	18軒					
	その他の数値指標3		来訪者数の割合	%	26%	H26	28%			地域交流拠点(ミライズ)の整備と運動した歴史的町並み景観整備をはじめ、事業者の増加に伴う多様なサービスの提供、さらにはSNSやソーシャルメディアを活用した多言語対応型観光案内の導入により、まちの魅力とホスピタリティが向上し、外国人等の旅行者の誘致につながったことで、市全体の来訪者数に占める割合が上昇傾向へと転じ、最低値であったH28年度の24%から28%(+4%)に上昇した。		-
	その他の数値指標4		来訪者の伸び率	%	100%	H26	107%			地域交流拠点(ミライズ)の整備と運動した歴史的町並み景観整備をはじめ、事業者の増加に伴う多様なサービスの提供、さらにはSNSやソーシャルメディアを活用した多言語対応型観光案内の導入により、まちの魅力とホスピタリティが向上し、外国人等の旅行者の誘致につながったことで、左記の成果に加えて從前値に対する数値目標の比率(1.2倍)に迫る比率(1.1倍)まで上昇させることができた。		-
	その他の数値指標5		HPアクセス数	件	35,131件	H26	46,047件			市HPのリニューアルや、SNS、ソーシャルメディア等を活用した双方コミュニケーションツールの活用促進を図ったことで、歴史的町並みに関する観光情報サイトへのアクセス数が増加しているなど、「見たい」、「知りたい」、「訪れたい」という観光客の関心の高まりにつながっている。		-
4)定性的な効果発現状況	平成30年3月に一般社団法人美馬観光ビューローが組織されて以降、市民と企業がまちづくりの主体となった観光地づくりが進められている。 特に、市民と企業が連携したイベント活動等は、かつて阿波藍で栄えた商人の「活気あるまち」の再現につながりつあるなど、次世代への礎となる人づくり、地域づくりが進展している。 また、まちづくり関係団体が中心となり毎年1月～2月にかけて行われている華道展では、日平均150人以上が訪れるなど歴史的景観地の活気づくりに一躍を担っている。 地域交流センター供用開始以後、継続的にイベントが開催されるなど、まちの活性化につながっている。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	事業活用調査(事業効果発現調査)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた			モニタリング結果については、市の総合計画や個別施設計画に反映済み。事後評価についても同様に反映予定。				
	住民参加プロセス	意見交換会、ミーティング、現場説明会を通じた合意形成の推進 ・高質空間形成施設(脇町237・236号線) ・既存建造物活用事業(地域交流センター)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた			市民と行政が協調し、役割分担をしながらまちづくりを推進。				
	持続的なまちづくり体制の構築	民間事業者との連携による古民家再生その他のぎわい再生事業の推進(華道家假屋崎省吾「うだつをいける」イベント)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた			市民、企業その他の団体・組織と行政が協調し、役割分担をしながらまちづくりを推進。				

## 様式2-2 地区の概要

美馬地区(徳島県美馬市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値		
大目標:地域の自然や歴史・文化と生活が調和した誰もが住みたくなる「まほろば」のまちづくり 目標1 一人ひとりの市民が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 目標2 人が集い、交流が生まれる活力と魅力あるまちづくり	地域交流拠点施設の利用者数	単位:人／年	-	-	104,400人	R1	196,133人	R1	
	歴史的景観地への来訪者数	単位:人／年	196,885人	H25	234,000人	R1	169,260人	R1	
市道脇町237・236号線				市民ホール	市民サービスセンター	市立図書館	子育て支援センター みらい	小規模保育所	交番
				地域交流センター ミライズ					
				まちの課題の変化		・中心市街地にある既存建造物を活用した複合施設の整備により、市民の主体的な文化・芸術活動への参加機会が増加するとともに、健康増進、生涯学習等の場として活用され、人が集い、交流が生まれる活力と魅力の創出につながった。 ・歴史、文化、環境(生活様式)と調和した町並み景観の形成(再生)により、まちの魅力を取り戻し、古民家を活用した民間事業者の起業など、かつて阿波藍で栄えた商人の「活気あるまち」の再生に向けた第一歩を踏み出すことができた。			
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)				・未利用地や遊休施設を活用し、にぎわいのあるまちづくりを行うために、美馬市版の集約型都市構造「グリーンコンパクトシティ」を実現する。 ・歴史的景観地への来訪者数の増加を図るため、観光資源の整備と魅力向上、観光客誘致の推進、広域観光の推進(にし阿波～剣山・吉野川観光圏との連携)を行う。					